

■五感をフル活用してポートランドを知りたい！！

自分としては、住民参加のまちづくりで全米でも注目されているという「ポートランド」。ポートランドに行くことで実際に住民の方、行政職員の声をじかに聞き、さらに空気や食べ物に体全体で触れることで、なぜこの町では住民参加のまちづくりが成功しているのかを感じたいと思い参加しました。

■様々な立場の方との交流

PSUのスタッフのお力による充実したプログラムのおかげで、ポートランドでは、アンケートや講義、イブニングサイトビジットを通し、普通の市民の方、行政担当者、議員の方、市民団体の方など、多くの立場の方のお会いすることができました。さらにファーマーズマーケットでは美味しい食べものを、また、イブニングサイトビジットの後にはおいしいお酒もいただけるなど、中身の濃いものとなり大満足の8日間でした。

■新たな「ハッ」がたくさん！

(1) 前例を疑え

イノベーションラボでグループが一緒だった、チップスのお友達、チャーリーの言葉。今回のような課題提出があったとき、文書の内容の正しさを確かめずに次のステップに落とすという作業ができていないと痛感しました。

(2) 劇的に物事は変わらない、忍耐力が必要。

これは、ダンさんの言葉。物事に変化を与える際、確かにスピード感も大事だけど、そこを意識しすぎて変化ができなければ意味がないということを教えてもらった。また、信念を持ち続ける忍耐力も必要だともおっしゃっていた。

ちなみに関係ないかもしれませんが、日本に帰る飛行機で上映されていた「踊る大捜査線 The FINAL」で警視庁の上層部と戦う室井管理官（柳葉敏郎）は「組織で生きる人間こそ、信念が必要だ」と言っていました。

■でも、うちとは変わらない、だけど、うちとは違う・・・

アメリカも日本も物事が決まるプロセスは、有識者を集めた会議もあれば、議会で決めるしと同じだし、公務員の悩みも同じ。でも結果はまるで違う。その理由の一つがコミュニケーションの問題で、今の自分の町はリーダーを意識的に遠ざけ、リーダーになることをやめさせているのではと気づかせていただいたことにとても感謝しています。

また、今回最後の発表で、3流劇をさせて頂きました。多くの方に褒めて頂きましたが、やはり人から認められるということは、嬉しく、やる気も出るものだと実感しました。自分に立ち返ったとき、例えば、自分が子どもから何かを質問されたときには、まずダメ出しをしていると思います。でも、今回の経験を通じて、たとえ「違うな～」と思っても、最初はきちんと人として認め、それから指摘するなどした方が、きっと伸びるはずだと思います。